

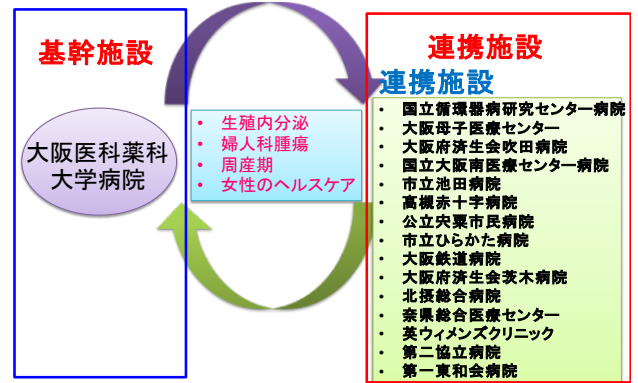
## 資料 3 大阪医科薬科大学専門研修コース

### A. 大阪医科薬科大学専門研修コースの概要

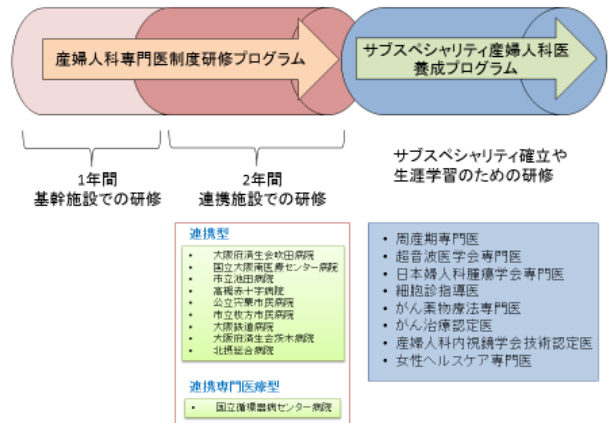
大阪医科薬科大学専門研修コースでは大阪医科薬科大学病院産科婦人科を基幹施設とし、連携指導施設とともに医療圏を形成して専攻医の指導にあたる。これは専門医養成のみならず、地域の安定した医療体制をも実現するものである。さらに、指導医の一部も施設を移る循環型の医師キャリア形成システムとすることで、地域医療圏全体での医療レベルの向上と均一化を図ることができ、これがまた、専攻医に対する高度かつ安定した研修システムを提供することにつながる。

研修は、原則として、大阪医科薬科大学病院およびその連携病院によって構成される、専攻医指導施設群において行う。研修の順序、期間等については、個々の産科婦人科専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、大阪医科薬科大学産科婦人科研修プログラム管理委員会が決定する。

### 専門研修施設群



専門医制度研修プログラムとその後のサブスペシャリティ研修の概要



### B. 大阪医科薬科大学専門研修コースの具体例

・産婦人科専門医養成コース；大阪医科薬科大学病院1年間と専攻医指導施設において2年間の合計3年間で専門医取得を目指すプログラムである。基幹施設研修を開始する研修コースを基本とし、周産期重点コース、婦人科腫瘍重点コース、生殖医学重点コースなどは個々の専攻医に希望に基づいて変更することが可能である(例1、2)。また、大阪医科大学附属病院産科婦人科専門研修プログラムでは、連携施設から研修を開始する研修コース(例3)を設けており、個々の専攻医の希望に応じたきめ細かい研修プログラムを作成することが可能である。

・産婦人科専門医大学院研修コース；大阪医科薬科大学病院で研修をしながら、大学院にも在籍し、専門医取得と同時に医学博士号を取得するためのプログラム(例4)。

・女性医師支援研修コース；女性医師で結婚しているために研修に十分時間がとれない場合のプログラム（例5）。女性医師の子育て支援のため、院内保育利用しながら、日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は、3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

・復帰支援研修コース；妊娠・出産などで一時的に職場を離れた場合の復帰を支援するプログラム。女性医師支援研修コースと同様に日勤帯を基本とした研修プログラムを個々の女性医師専攻医の希望に合わせて作成する。研修期間は、3年を基本とするが、研修進捗状況に合わせて延長も考慮して変更することが可能である。

#### C. サブスペシャリティの取得に向けたプログラムの構築

大阪医科薬科大学産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得へつながるようなものとする。

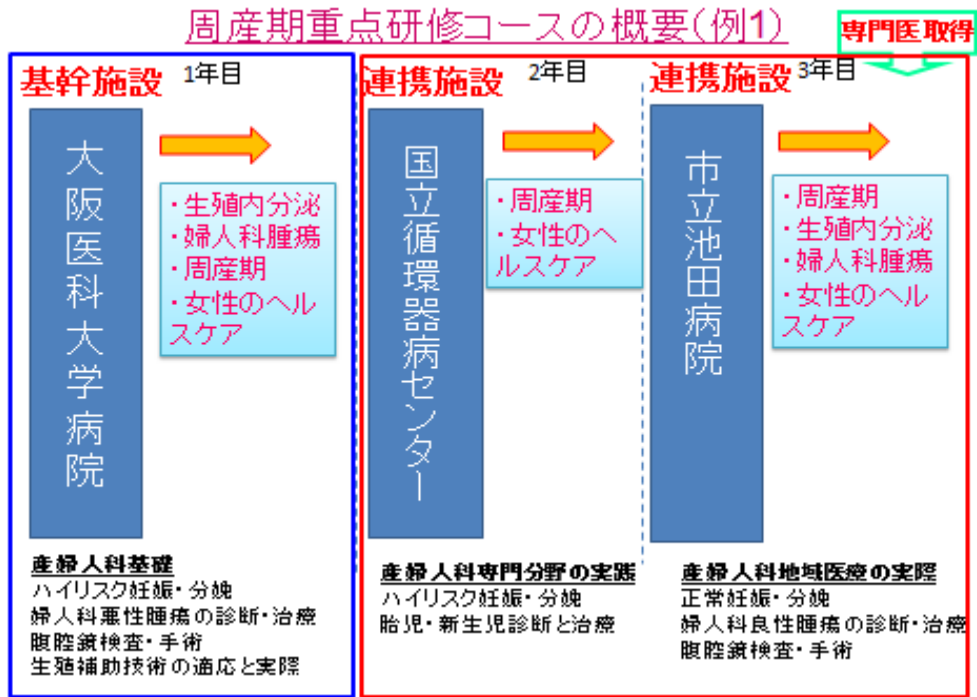
- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

専門医取得後には、「サブスペシャリティ産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

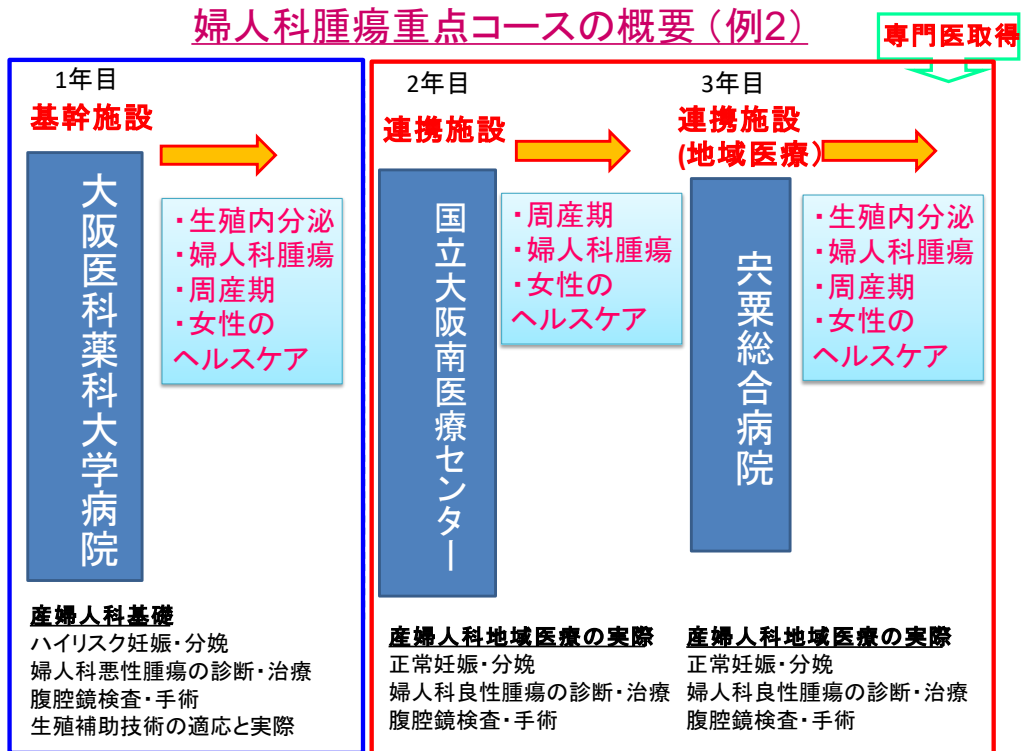
#### D. 初期研修プログラム

大阪医科薬科大学産科婦人科専門研修プログラム管理委員会は、初期臨床研修管理センターと協力し、大学卒業後2年以内の初期研修医の希望に応じて、将来産婦人科を目指すための初期研修プログラム作成にもかかわる。現在の初期研修プログラムでは、内科系、外科系、麻酔科、救急医療などの基礎研修の後に産婦人科の初期研修を行い、産婦人科専門研修への準備を行うコースを設けている。

1). 周産期重点研修コース



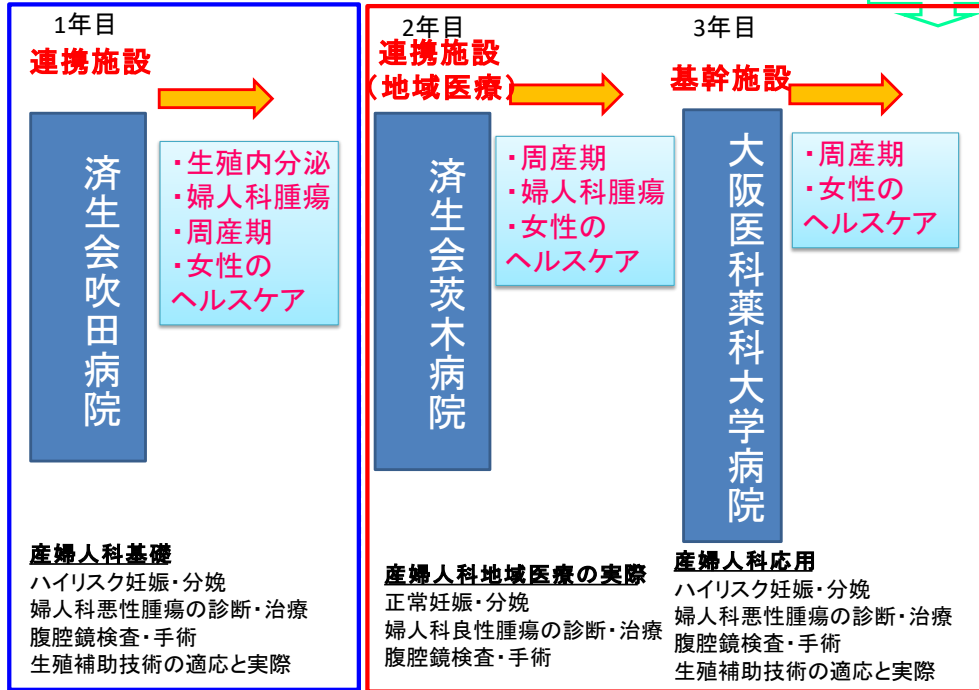
2). 婦人科腫瘍重点研修コース



3). 連携施設開始研修コース

連携施設開始研修コースの概要(例3)

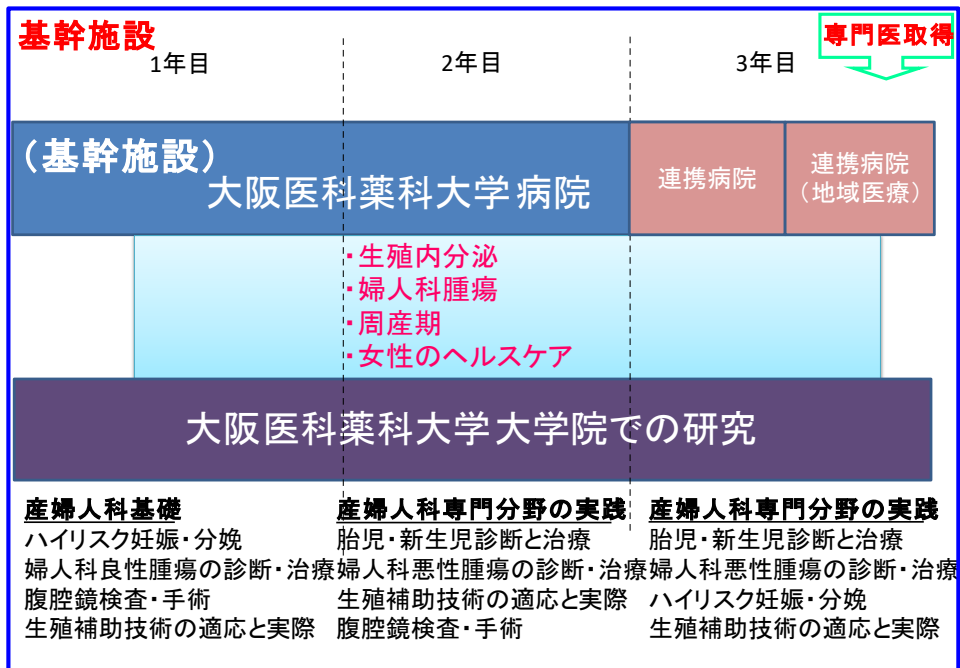
専門医取得



4). 大学院研修コース

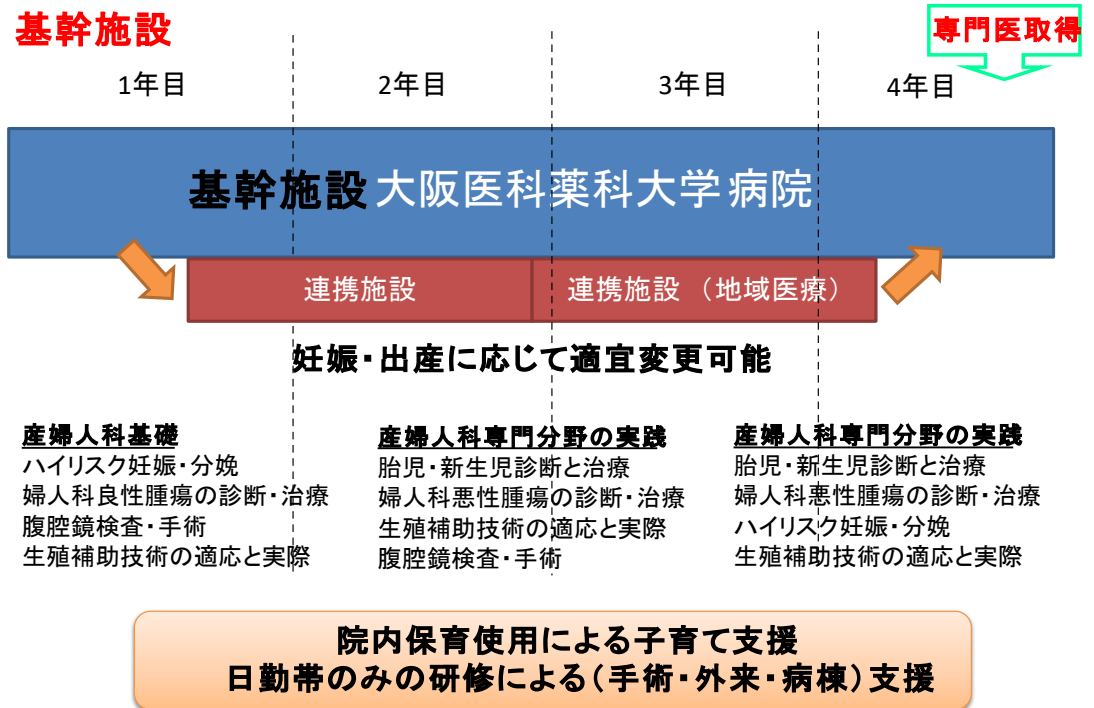
大学院研修コースの概要(例4)

専門医取得



5). 女性医師支援研修コース

女性医師支援コース概要(例5)



## 6) 大阪医科薬科大学産科婦人科初期研修プログラム

### 1. 初期研修プログラムの概要

- (ア) 卒後5年経過した時点で産婦人科専門医試験が受けられるよう、初期研修の2年目の研修の段階から周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌および女性のヘルスケアの4分野の疾患の基礎を万遍なく経験できるように考慮する。
- (イ) 初期研修プログラム（大阪医科薬科大学）は以下の4コース（選択コース、セミストレートコース、ストレートコース、重点コース）を設け、各研修プログラムに特徴を持たせる。
- (ウ) 重点コースには、さらに6コース（産婦人科重点コース、生殖・内分泌重点コース、腫瘍重点コース、周産期重点コース、女性のヘルスケア重点コース）を設け、各研修プログラムに特徴を持たせ、専門医研修コースに入るまでに、個々の目的に合わせたキャリア形成を早期から図ることができる。
- (エ) 教室の主催する学会、研究会、産婦人科卒後研修セミナー等に参加でき、研修できる。個々の進行状況、参加研修コースに従い、各種学会発表や論文作成などができる。

### 2. 初期研修プログラム例

- (ア) 選択コース (basic course) : 産婦人科診療の基礎と産婦人科救急の対応などできるようにするために、周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌および女性のヘルスケアの各領域での担当医として治療に関わってもらう。さらに興味のある専門分野に対する技能・知識を持ってもらうために、他施設（国立循環器病センター）や他領域（病理、放射線など）との合同カンファレンスや勉強会に参加してもらう。また、本コースから専門性を高めた advanced course である6ヶ月コースへスムーズに移行することが出来る。
- (イ) セミストレートコース (advanced course) : 不妊患者の診断・管理・治療、正常妊娠の診断・管理・分娩に関わる知識・技術の習得、胎児診断の基礎的技術の習得、新生児管理の基礎的技術の習得、婦人科悪性腫瘍の診断に要する各種検査方法・病理学診断と治療計画立案に関わる知識・技術の習

得、腹部手術の基本手技から解剖に則った骨盤外科手技を習得、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌における、手術療法、術後化学療法、放射線療法など集学的治療を学び、癌治療における全般的な知識と治療経験を積む。閉経という女性が必ず迎える内分泌的な変化以降に生じる多くの疾患を管理しトータルヘルスケアを目指す。以上の各領域の指導医の下で、担当医として治療に関わってもらふ。さらに興味のある専門分野に対する技能・知識を持ってもらうために、他施設（国立循環器病センター）や他領域（病理、放射線科など）との合同カンファレンスや勉強会に参加してもらふ。また研修中にはNICUや国立循環器病センターでの新生児管理研修、地域連携病院での実地医療研修を選択することが出来る。また、専門性を高めるために、内視鏡トレーニングセンターでのブタを使った内視鏡訓練や腫瘍学会や各種研究会への参加も出来る。さらに本コースでは、上級指導医の指導の下で、症例発表以上の学会発表と論文作成を到達目標に入れている。

(ウ) ストレートコース (subspecialty course) : より高度な産婦人科専門医を育成するために、各領域での担当医として治療に関わってもらふ。さらに興味のある専門分野に対する知識・技能を持ってもらうために、他施設（国立循環器病センター）や他領域（病理、放射線科）との合同カンファレンスや勉強会に参加してもらふ。研修中にはNICUや国立循環器病センターでの新生児管理研修を1-2ヶ月単位で研修してもらふ。地域連携病院での研修を取り入れ、大学以外での実地医療を経験してもらふ。また、専門性を高めるために、内視鏡トレーニングセンターでのブタを使った内視鏡訓練や腫瘍学会や各種研究会への参加も出来る。さらに本コースでは、上級指導医の指導の下で、症例発表以上の学会発表と論文作成を達成目標に入れている。

(エ) 重点コース : 本コースでは、①産婦人科全般、②生殖・内分泌、③腫瘍、④周産期、⑤女性のヘルスケア5コースより、個々の研修医とのマッチングの上、それぞれの重点分野において専門性をもった研修をしてもらふ。それぞれのコースの特徴は以下に示すが、他施設（国立循環器病センター）や他領域（病理、放射線）との合同カンファレンスや勉強会やNICUや国立循環器病センターでの新生児管理研修、消化器外科や泌尿器科、放射線科など関連科への研修を組み入れていく。さらに地域連携病院での研修を取り入れ、大学以外での実地医療を経験してもらふ。また、専門性を高めるために、内視鏡訓練施設や生殖医療セミナーや婦人科腫瘍学会などの主

催する若手専門医育成セミナーへの参加や各種研究会への参加も出来る。さらに本コースでは、上級指導医の下で、症例発表・臨床研究発表等の学会発表と論文作成をし、早期にキャリア形成することを必須目標に入れている。

